

三重県防災会議専門部会「防災・減災対策検討会議」（平成29年度第1回）
議事概要

日 時：平成29年9月20日（水）13:30～15:30

場 所：三重県勤労者福祉会館6階講堂

1 出席者（50音順）

河田委員長、大森委員、川合委員、川口委員、黒川委員、新谷委員、
高瀬委員、松田委員、福井委員 以上9名

2 運営要領の改正及び委員長の選任について

- ・委員長に、全会一致で河田委員長を選任した。

3 議題

(1) 三重県防災・減災対策行動計画（仮称）の検討状況

(2) 三重県防災・減災対策行動計画（仮称）の検証結果と課題

参考1、参考2に基づき検討状況を、資料1に基づき検証結果と課題の説明
を事務局から行い、引き続き、意見交換を行った。

意見の概要は次のとおり。

- ・要援護者対策、名簿作成は義務だが、本当に現場で命を守るための計画が作られているか、サポートしていかなければならない。
- ・県として県民とともに進めていく数値目標は、本当に実効性のあるものでなければならぬということ伝えながら、ワークショップで一緒にやっている。
- ・めざすべき社会の有り様を示して、それにどれだけ進んでいるかを測るようなアクションプランがわかりやすい。
- ・大事なことがたくさん並んでいるが、これら全てを実施するとなると市町はマンパワーも不足し、財源もないので消化不良となるのではないかと。市町毎にどの部分を強化していくのか説明していくことが必要。
- ・社会に必要な人材を常時何かのボランティアをしているような社会にしていけないと立ち行かない。住民が幅広くボランティアする取り組みを三重県から発信して欲しい。
- ・わざわざ防災のための組織を作るのも難しいので、趣味のサークルやグループを活用するのも一つではないか。
- ・県内それぞれの地域で意識も違う、課題も違う。先日、防災大臣が来て香良洲地区の命山を視察された。ハードが見えてきたことで訓練参加者も今までよりかなり増えた事例が県内でも出てきている。
- ・自助、共助に関する課題が進んでいない。市町だけをお願いしても進まない

- ため、市町職員がみえ防災・減災センターや県と一緒に課題を研究し、地域でモデルを作って展開することができないかと検討を始めている。
- ・災害医療訓練を定期的に行っている。四日市はコンビナート地帯を抱えており、除染の訓練などをやっているが、災害時にリソースが間に合うのか、訓練して自己満足に陥っていないか心配している。
 - ・地域の災害特性や脆弱性をふまえて訓練を重ねることが必要。
 - ・ここ数年、雨の降り方がすごく、昔のデータでは合わない。昔の災害のイメージが住民にもあるが、今は昔と違う。
 - ・自助については、住民が最終的にどう考えてどう動くか、タイムラインを住民が理解し、意識して動くようにするためには、住民の意識レベルを上げる必要がある。訓練などが必要。
 - ・訓練や防災講演会は、だいたいいつも意識の高い人が参加し発言する。そうでない人の意識を高めることが重要。最後に動かなければならない住民の意識を高め、意識の底上げをしないと意味がない。
 - ・大台町では土砂災害が深刻で、ほとんどが警戒区域でどこに行っても危ない状況。警戒区域に入っている福祉施設に避難確保計画の説明を行ったが、指定避難所でも危ないかもしれず、2階などへの避難も必要と話した。
 - ・利用者受け入れの施設間相互協定が必要ではないか。避難訓練、防災訓練時には自主防災組織や消防団を活用してほしい。
 - ・タイムラインも策定したいと思っているが、町内が広いので、地域別にタイムラインが必要になってくるのではないかと考えている。
 - ・災害ボランティアはマンパワーが重要。市民への啓蒙活動を強化しているが、若い人の人材育成ができてないと感じている。
 - ・定期的に地域との顔の見える関係を構築していく必要がある。
 - ・女性は若いうちからサークルやボランティア活動に参加している人が多いが、男性は少ない。退職してから地域に入っていくのは難しいので、子供の手が離れるころから趣味を持ち、ボランティアに入ってもらえればいいのではないか。
 - ・自分たちは地域でヘルパーやサービス利用するときに「サービス利用計画」を作成するが、その際、利用計画に災害時の避難方法についても記載するしくみとしてはどうか。これを三重から全国に発信してもらえると、防災と福祉が連携することで、支援計画の作成が今より進む気がする。
 - ・津波が来た時、立体駐車場は車いす利用者にとって便利だと感じている。